

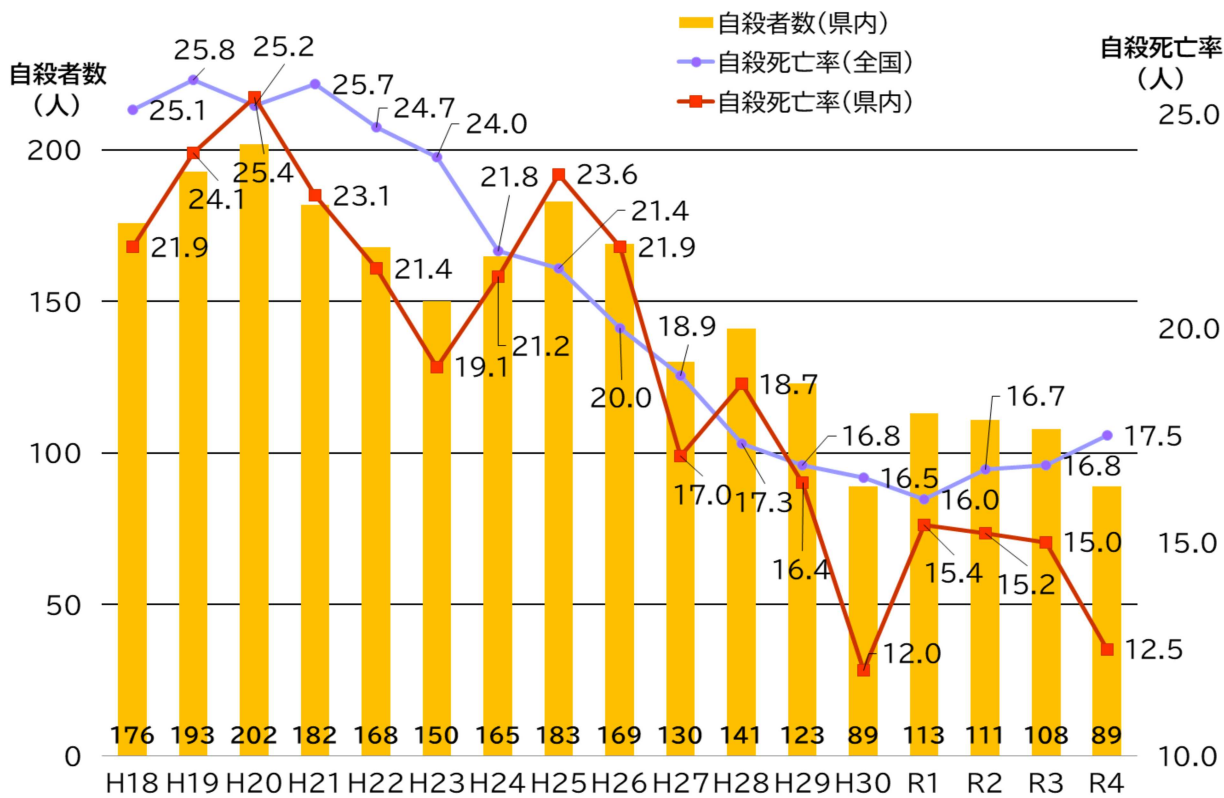
第2章 徳島県における自殺の現状

1 自殺者数及び自殺死亡率の推移

徳島県における自殺者数は、平成20年に202人と、自殺対策基本法が制定された平成18年以降で最多、自殺死亡率^{*1}についても25.4と、最も高い数値となりました。

以降、年により増減はあるものの、減少傾向が継続しており、平成30年及び令和4年には、自殺者数89人、自殺死亡率も13.0を下回るなど、大幅に改善しています。

[自殺者数及び自殺死亡率の推移]



表中の全国順位は少ない方から数えての順位

資料：警察庁「自殺統計」及び厚生労働省「警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等」より

		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
県内	自殺者数(人)	176	193	202	182	168	150	165	183	169	130	141	123	89	113	111	108	89
	全国順位(位)	2	2	1	2	1	1	2	4	5	4	3	3	2	3	2	2	2
	自殺死亡率	21.9	24.1	25.4	23.1	21.4	19.1	21.2	23.6	21.9	17.0	18.7	16.4	12.0	15.4	15.2	15.0	12.5
	全国順位(位)	7	11	23	6	4	2	14	32	31	7	29	12	1	10	8	8	1
全国	自殺者数(人)	32,155	33,093	32,249	32,845	31,690	30,651	27,858	27,283	25,427	24,025	21,897	21,321	20,840	20,169	21,081	21,007	21,881
	自殺死亡率	25.1	25.8	25.2	25.7	24.7	24.0	21.8	21.4	20.0	18.9	17.3	16.8	16.5	16.0	16.7	16.8	17.5

^{*1}自殺死亡率 人口10万人あたりの自殺者数(単位:人)

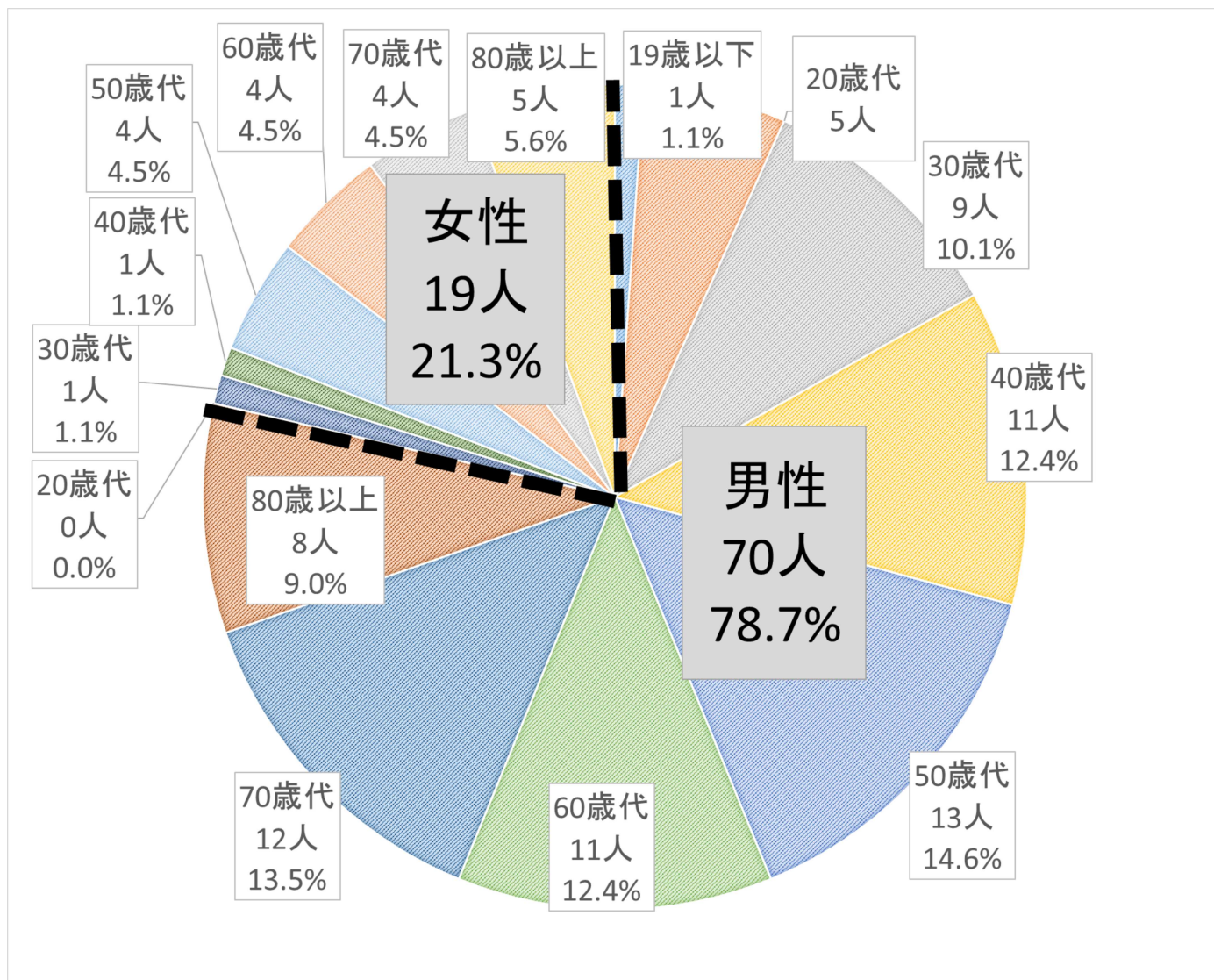
2 自殺者の性別及び年齢別、職業及び原因・動機別の状況

(1) 性別及び年齢別の状況

徳島県における男女別の自殺者の割合は、令和4年の自殺者数は男性70人、女性19人となっています。女性に対して男性の自殺者が2～3倍程度で推移しています。

また、自殺者数を年齢階級別に見ると、39歳以下の若年層が16人(18.0%)、40歳代から50歳代が29人(32.6%)、60歳代以上が44人(49.4%)となっており、10歳ごとの年齢区分では、50歳代の自殺者数が17人(19.1%)と、最も多くなっています。

[令和4年中における性別・年齢別の自殺者数構成割合]



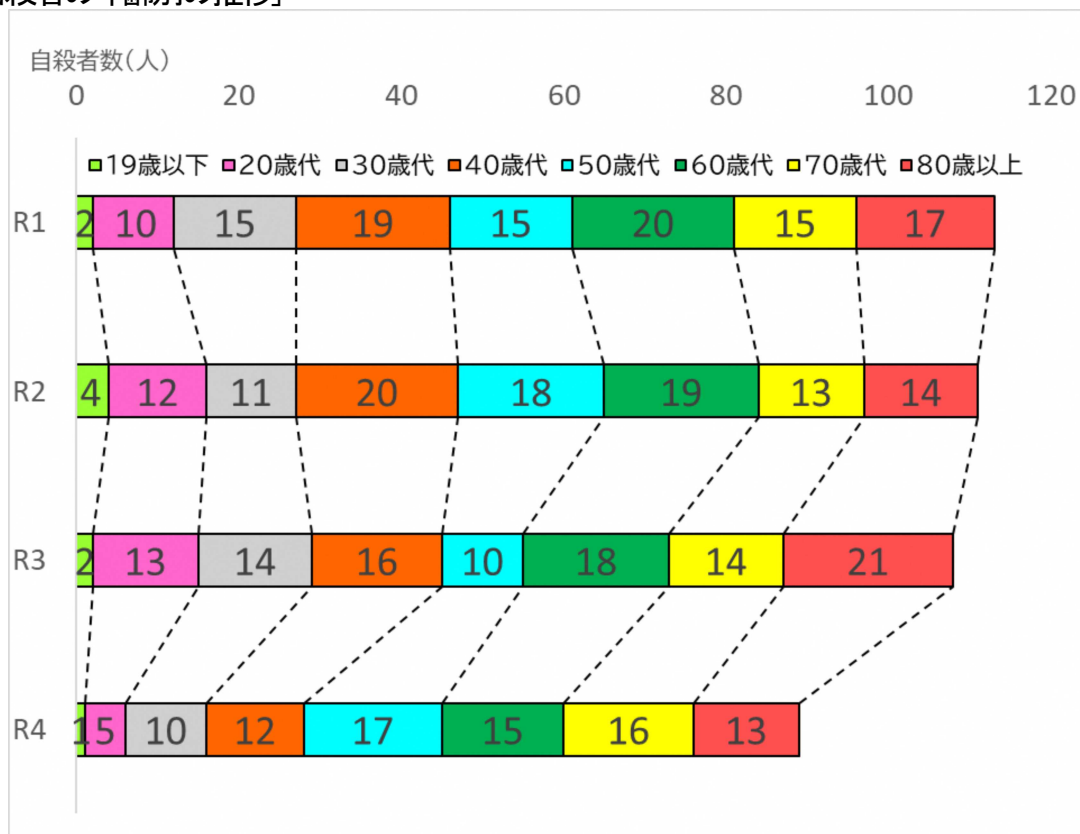
資料: 徳島県警本部「自殺統計」より

令和元年から令和4年までの年齢別の自殺者数の推移を見ると、年によりばらつきはあるものの、各世代とも減少傾向にあります。

年齢別の自殺者数を構成比で見ると、ここ数年において、自殺者数に占める29歳以下の割合が減少しています。

また、全国との状況との比較では、60歳代以上の占める割合が大きくなっており、本県における人口構成と同様の状況となっています。

[自殺者の年齢別の推移]



年		年齢別								合計
		19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
R1	自殺者数(人)	2	10	15	19	15	20	15	17	113
	構成比(%)	1.8%	8.8%	13.3%	16.8%	13.3%	17.7%	13.3%	15.0%	100.0%
R2	自殺者数(人)	4	12	11	20	18	19	13	14	111
	構成比(%)	3.6%	10.8%	9.9%	18.0%	16.2%	17.1%	11.7%	12.6%	100.0%
R3	自殺者数(人)	2	13	14	16	10	18	14	21	108
	構成比(%)	1.9%	12.0%	13.0%	14.8%	9.3%	16.7%	13.0%	19.4%	100.0%
R4	自殺者数(人)	1	5	10	12	17	15	16	13	89
	構成比(%)	1.1%	5.6%	11.2%	13.5%	19.1%	16.9%	18.0%	14.6%	100.0%
※参考 全国の 状況 (R4)	自殺者数(人)	798	2,483	2,545	3,665	4,093	2,765	2,994	2,490	21,833
	構成比(%)	3.7%	11.4%	11.7%	16.8%	18.7%	12.7%	13.7%	11.4%	100.0%

※令和4年における全国の自殺者数及び構成比は、年齢不詳の者(48人)を除いたもの。

資料: 徳島県警察本部「自殺統計」より

(2) 死因順位別にみた年齢階級死亡数・死亡率・構成割合

令和4年中における全国の年代別の死因を見ると、男女を合わせた総数において、10～39歳までの各年代において、死因の第1位が自殺となっています。

また、男女別に見ると、男性では10～44歳、女性では10～34歳の各年代において、死因の第1位が自殺となっています。

[令和4年中における死因順位別にみた年齢階級及び性別の死亡数・死亡率・構成割合]

〈総数〉

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)
10～14歳	自 殺	128	2.4	29.0	悪性新生物 <腫瘍>	82	1.5	18.6	不慮の事故	52	1.0	11.8
15～19歳	自 殺	632	11.5	52.5	不慮の事故	162	2.9	13.5	悪性新生物 <腫瘍>	126	2.3	10.5
20～24歳	自 殺	1,285	21.8	58.9	不慮の事故	239	4.1	10.9	悪性新生物 <腫瘍>	157	2.7	7.2
25～29歳	自 殺	1,241	20.9	53.4	悪性新生物 <腫瘍>	225	3.8	9.7	不慮の事故	201	3.4	8.7
30～34歳	自 殺	1,180	19.0	41.2	悪性新生物 <腫瘍>	517	8.3	18.1	心疾患 (高血圧性を除く)	197	3.2	6.9
35～39歳	自 殺	1,297	18.3	30.2	悪性新生物 <腫瘍>	946	13.4	22.0	心疾患 (高血圧性を除く)	377	5.3	8.8
40～44歳	悪性新生物 <腫瘍>	2,037	25.6	28.5	自 殺	1,527	19.2	21.3	心疾患 (高血圧性を除く)	757	9.5	10.6
45～49歳	悪性新生物 <腫瘍>	4,296	45.0	31.4	自 殺	1,945	20.4	14.2	心疾患 (高血圧性を除く)	1,693	17.7	12.4
50～54歳	悪性新生物 <腫瘍>	7,445	82.0	35.5	心疾患 (高血圧性を除く)	2,797	30.8	13.4	自 殺	1,852	20.4	8.8
55～59歳	悪性新生物 <腫瘍>	11,365	147.8	40.9	心疾患 (高血圧性を除く)	3,544	46.1	12.8	脳血管疾患	1,996	26.0	7.2
60～64歳	悪性新生物 <腫瘍>	17,660	242.0	44.0	心疾患 (高血圧性を除く)	5,122	70.2	12.8	脳血管疾患	2,645	36.2	6.6

〈男〉

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)
10～14歳	自 殺	60	2.2	24.6	悪性新生物 <腫瘍>	49	1.8	20.1	不慮の事故	40	1.5	16.4
15～19歳	自 殺	380	13.4	50.3	不慮の事故	122	4.3	16.1	悪性新生物 <腫瘍>	76	2.7	10.1
20～24歳	自 殺	821	27.3	57.0	不慮の事故	189	6.3	13.1	悪性新生物 <腫瘍>	109	3.6	7.6
25～29歳	自 殺	828	27.3	54.2	不慮の事故	152	5.0	10.0	悪性新生物 <腫瘍>	119	3.9	7.8
30～34歳	自 殺	826	26.1	44.9	悪性新生物 <腫瘍>	222	7.0	12.1	心疾患 (高血圧性を除く)	156	4.9	8.5
35～39歳	自 殺	927	25.7	33.4	悪性新生物 <腫瘍>	395	11.0	14.2	心疾患 (高血圧性を除く)	294	8.2	10.6
40～44歳	自 殺	1,076	26.6	24.2	悪性新生物 <腫瘍>	779	19.3	17.5	心疾患 (高血圧性を除く)	587	14.5	13.2
45～49歳	悪性新生物 <腫瘍>	1,865	38.5	21.4	自 殺	1,374	28.3	15.8	心疾患 (高血圧性を除く)	1,362	28.1	15.6
50～54歳	悪性新生物 <腫瘍>	3,470	75.6	25.7	心疾患 (高血圧性を除く)	2,267	49.4	16.8	自 殺	1,276	27.8	9.5
55～59歳	悪性新生物 <腫瘍>	6,141	159.4	32.9	心疾患 (高血圧性を除く)	2,941	76.3	15.8	脳血管疾患	1,425	37.0	7.6
60～64歳	悪性新生物 <腫瘍>	10,834	299.6	39.1	心疾患 (高血圧性を除く)	4,112	113.7	14.8	脳血管疾患	1,849	51.1	6.7

〈女〉

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)	死 因	死亡数	死亡率	割合 (%)
10～14歳	自 殺	68	2.6	34.5	悪性新生物 <腫瘍>	33	1.3	16.8	先天奇形、変形及び染色体異常	18	0.7	9.1
15～19歳	自 殺	252	9.4	56.3	悪性新生物 <腫瘍>	50	1.9	11.2	不慮の事故	40	1.5	8.9
20～24歳	自 殺	464	16.1	62.4	不慮の事故	50	1.7	6.7	悪性新生物 <腫瘍>	48	1.7	6.5
25～29歳	自 殺	413	14.2	51.9	悪性新生物 <腫瘍>	106	3.6	13.3	不慮の事故	49	1.7	6.2
30～34歳	自 殺	354	11.6	34.5	悪性新生物 <腫瘍>	295	9.7	28.8	不慮の事故	45	1.5	4.4
35～39歳	悪性新生物 <腫瘍>	551	15.8	36.2	自 殺	370	10.6	24.3	心疾患 (高血圧性を除く)	83	2.4	5.5
40～44歳	悪性新生物 <腫瘍>	1,258	32.2	46.4	自 殺	451	11.5	16.6	心疾患 (高血圧性を除く)	170	4.4	6.3
45～49歳	悪性新生物 <腫瘍>	2,431	51.8	49.0	自 殺	571	12.2	11.5	脳血管疾患	400	8.5	8.1
50～54歳	悪性新生物 <腫瘍>	3,975	88.6	53.4	自 殺	576	12.8	7.7	脳血管疾患	559	12.5	7.5
55～59歳	悪性新生物 <腫瘍>	5,224	136.2	57.2	心疾患 (高血圧性を除く)	603	15.7	6.6	脳血管疾患	571	14.9	6.3
60～64歳	悪性新生物 <腫瘍>	6,826	185.3	55.2	心疾患 (高血圧性を除く)	1,010	27.4	8.2	脳血管疾患	796	21.6	6.4

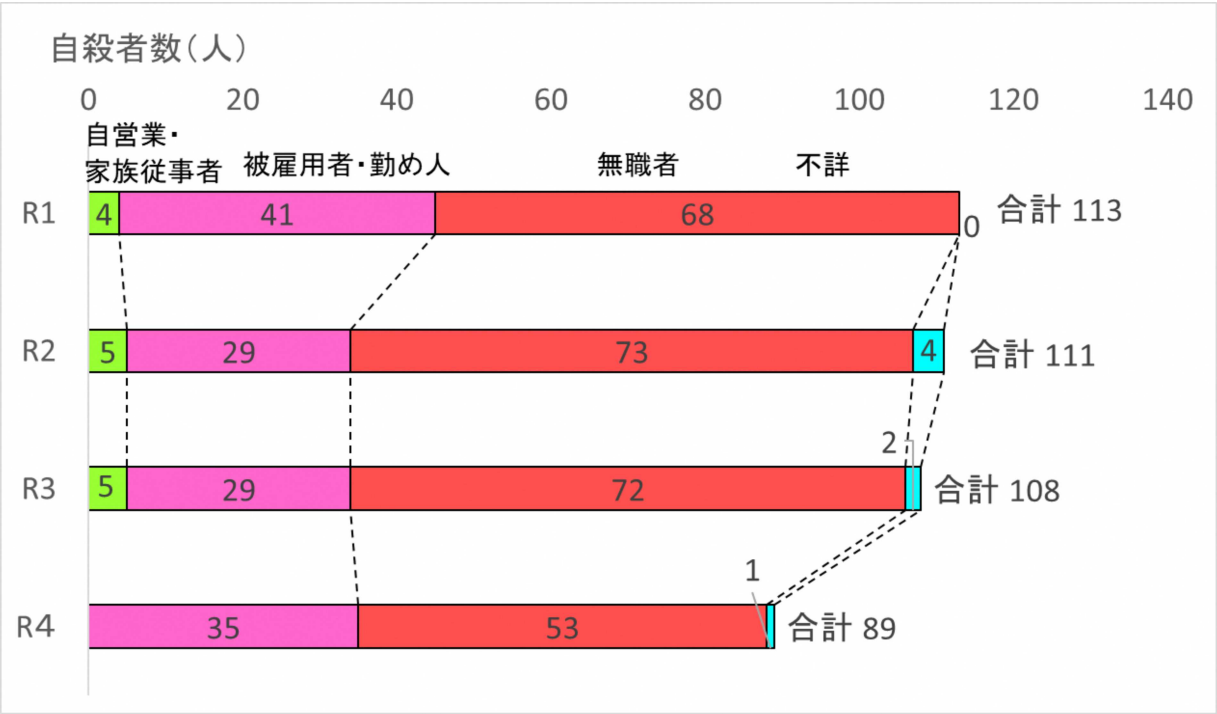
資料:「令和5年度版 自殺対策白書」より

(3) 職業別の状況

令和4年中における職業別の自殺者数(構成比)のうち、無職者(学生等を含める)の合計は53人となっており、自殺者数の約6割に相当します。

近年の推移を見ると、全体的に自殺者数が減少する中、有職者の占める割合が徐々に増加しています。

[自殺者の職業別の状況]



年		職業別								合計
		自営業・ 家族従業員 者	被雇用 者・勤め 人	学生等	無職者				不詳	
					主婦	失業者	年金等 生活者	その他 無職者		
R1	自殺者数(人)	4	41	3	6	2	26	31	0	113
	構成比(%)	3.5%	36.3%	2.7%	5.3%	1.8%	23.0%	27.4%	0.0%	100.0%
R2	自殺者数(人)	5	29	3	4	4	23	39	4	111
	構成比(%)	4.5%	26.1%	2.7%	3.6%	3.6%	20.7%	35.1%	3.6%	100.0%
R3	自殺者数(人)	5	29	6	4	1	31	30	2	108
	構成比(%)	4.6%	26.9%	5.6%	3.7%	0.9%	28.7%	27.8%	1.9%	100.0%
			有職者	※令和4年からは「有職者」に統一						
R4	自殺者数(人)	35	4	2	3	31	13	1	89	
	構成比(%)	39.3%	4.5%	2.2%	3.4%	34.8%	14.6%	1.1%	100.0%	
※参考 全国の状況 (R4)	自殺者数(人)	8,576	1,063	1,175	1,220	5,220	4,160	467	21,881	
	構成比(%)	39.2%	4.9%	5.4%	5.6%	23.9%	19.0%	2.1%	100.0%	

資料:警察庁及び徳島県警本部「自殺統計」より

(4) 原因・動機別の状況

令和4年中における自殺者数を原因動機^{*1}別に見ると、不詳を除き健康問題が56件（内、うつ病と特定されたのが20件）で最も多く、次いで経済・生活問題が12件、家庭問題が11件となっています。

近年においては、健康問題について、増加傾向が見られます。

[自殺者の原因・動機別の状況(件数)]

年	原因・動機別									自殺者数 (人)
	家庭問題	健康問題	うち うつ病	経済・生活 問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳	
R1	5	36	12	9	4	5	2	2	61	113
R2	10	39	17	14	6	8	1	4	49	111
R3	10	40	21	8	3	4	2	5	52	108
R4	11	56	20	12	8	1	3	2	22	89
※参考 全国の状況 (R4)	4,775	12,774		4,697	2,968	828	579	1,734	2,717	21,881

(5) 年齢別、原因・動機別の状況

令和4年中の原因・動機別の状況を年齢別に区分すると、50歳代以上において、健康問題が多くなっています。

[令和4年中の年齢別、原因・動機別の状況]

年齢階級別 原因・動機別	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
合計	2	5	14	15	22	18	18	17	1	112
家庭問題	0	0	1	2	2	2	3	1	0	11
健康問題	1	1	3	6	13	8	11	12	1	56
経済・生活問題	0	0	5	2	0	4	0	1	0	12
勤務問題	0	1	0	2	2	1	0	1	0	7
交際問題	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
学校問題	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
その他	0	0	0	0	2	0	1	1	0	4
不詳	0	2	4	3	2	3	3	1	0	18

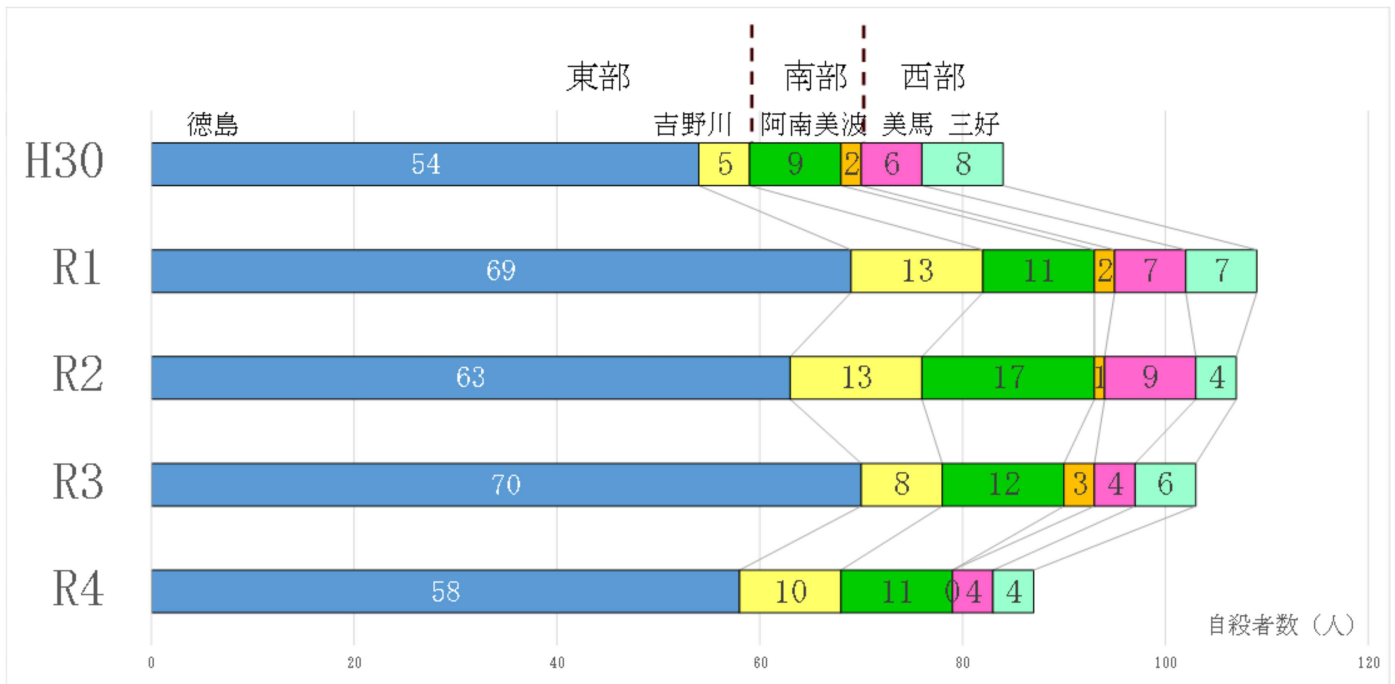
*1 遺書等の自殺を裏付ける資料により特定できる原因・動機を自殺者一人につき4つまで計上可能としているため、原因・動機動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数とは一致しません。

3 地域別の状況

(1) 圏域及び保健所別の状況

令和4年中の圏域別の自殺者数は、東部圏域が68人、南部圏域が11人、西部圏域が8人となっており、自殺死亡率については、東部12.5、南部12.0、西部11.5となっています。
各地域とも概ね減少傾向で推移しています。

[圏域及び保健所別の自殺者数の状況]



資料: 厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より

※自殺者数は住居地ベースによる集計であり県外居住者は含んでいない

[圏域及び保健所別の自殺死亡率の状況]

圏域	保健所名	自殺者数 (人)						自殺死亡率 (%)					
		H30	R1	R2	R3	R4	平均	H30	R1	R2	R3	R4	平均
東部	徳島保健所	54	69	63	70	58	63	11.0	14.2	13.0	14.6	12.3	13.0
	吉野川保健所	5	13	13	8	10	10	6.5	17.2	17.5	10.9	14.1	13.2
	圏域小計・平均	59	82	76	78	68	73	10.4	14.7	13.6	14.1	12.5	13.1
南部	阿南保健所	9	11	17	12	11	12	11.3	14.0	21.9	15.6	14.7	15.5
	美波保健所	2	2	1	3	0	2	10.1	10.4	5.3	16.4	0.0	8.5
	圏域小計・平均	11	13	18	15	11	14	11.1	13.5	18.7	15.8	12.0	14.2
西部	美馬保健所	6	7	9	4	4	6	15.8	18.9	24.8	11.2	11.7	16.5
	三好保健所	8	7	4	6	4	6	20.1	17.9	10.5	16.1	11.2	15.2
	圏域小計・平均	14	14	13	10	8	12	18.4	18.8	17.4	13.7	11.5	16.0
合計		84	109	107	103	87	98	12.0	15.3	15.2	15.0	12.5	14.0

資料: 厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より

※自殺者数は住居地ベースによる集計

圏域及び保健所別自殺死亡率については、上記資料及び総務省「住民基本台帳」より徳島県算出

(2) 市町村別の状況

県内市町村における自殺死亡率の状況は、次のとおりであり、山間地域において、自殺死亡率がやや高い傾向が見られます。

各市町村が実施する自殺対策の取組の成果もあり、近年は、全体的に減少傾向で推移しています。

[市町村別の自殺者数の状況(平成30年～令和4年)]

市町村名	H30	H31/R1	R2	R3	R4	5か年平均
徳島市	27	36	35	44	29	34.2
鳴門市	6	11	6	10	8	8.2
小松島市	11	6	5	5	6	6.6
阿南市	6	9	15	11	10	10.2
吉野川市	4	9	5	4	8	6.0
阿波市	1	3	8	5	2	3.8
美馬市	1	7	9	4	3	4.8
三好市	7	5	4	4	4	4.8
勝浦町	1	3	2	0	0	1.2
上勝町	1	2	0	0	0	0.6
佐那河内村	0	0	0	0	0	0.0
石井町	4	3	3	3	5	3.6
神山町	0	0	0	0	1	0.2
那賀町	3	2	2	1	1	1.8
牟岐町	0	0	0	1	0	0.2
美波町	1	1	0	1	0	0.6
海陽町	1	1	1	1	0	0.8
松茂町	1	0	2	1	0	0.8
北島町	2	1	3	4	2	2.4
藍住町	1	5	4	4	7	4.2
板野町	2	3	4	1	2	2.4
上板町	1	2	0	1	0	0.8
つるぎ町	6	1	0	0	1	1.6
東みよし町	2	2	1	2	0	1.4

※各市町村とも住居地ベースの自殺者数を記載

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より

[市町村別の自殺死亡率の状況(平成30年～令和4年)]

市町村名	H30	H31/R1	R2	R3	R4	5か年平均
徳島市	10.5	14.2	13.8	17.5	11.6	13.5
鳴門市	10.2	19.0	10.5	17.8	14.4	14.4
小松島市	28.6	15.8	13.3	13.6	16.5	17.6
阿南市	8.0	12.2	20.7	15.3	14.1	14.1
吉野川市	9.6	21.8	12.3	10.0	20.2	14.8
阿波市	2.6	7.9	21.6	13.7	5.6	10.3
美馬市	3.3	23.8	31.2	14.1	11.1	16.7
三好市	26.0	19.1	15.6	16.1	16.6	18.7
勝浦町	18.6	56.9	38.9	0.0	0.0	22.9
上勝町	63.2	129.3	0.0	0.0	0.0	38.5
佐那河内村	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
石井町	15.3	11.6	11.6	11.7	19.8	14.0
神山町	0.0	0.0	0.0	0.0	20.1	4.0
那賀町	34.9	23.8	24.5	12.6	13.0	21.7
牟岐町	0.0	0.0	0.0	25.3	0.0	5.1
美波町	14.4	14.8	0.0	15.5	0.0	8.9
海陽町	10.4	10.6	10.8	11.1	0.0	8.6
松茂町	6.6	0.0	13.3	6.7	0.0	5.3
北島町	8.6	4.3	12.9	17.2	8.5	10.3
藍住町	2.9	14.2	11.3	11.3	19.7	11.9
板野町	14.7	22.1	29.8	7.5	15.2	17.9
上板町	8.2	16.6	0.0	8.5	0.0	6.6
つるぎ町	64.5	11.2	0.0	0.0	13.9	17.9
東みよし町	13.7	13.8	7.0	14.2	0.0	9.8

※各市町村とも住居地ベースの自殺者数を記載

資料:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」より

4 自損行為による救急出動件数等の状況

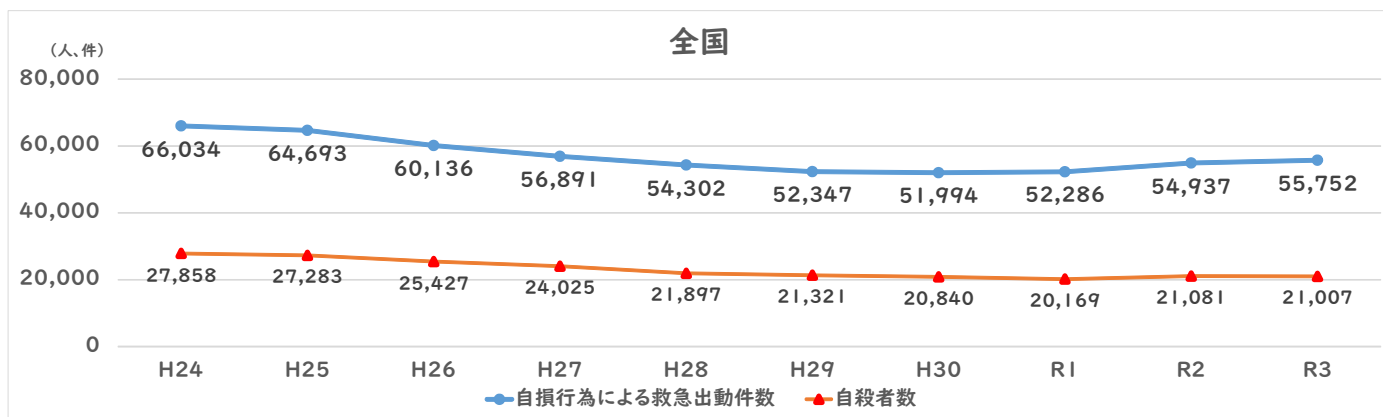
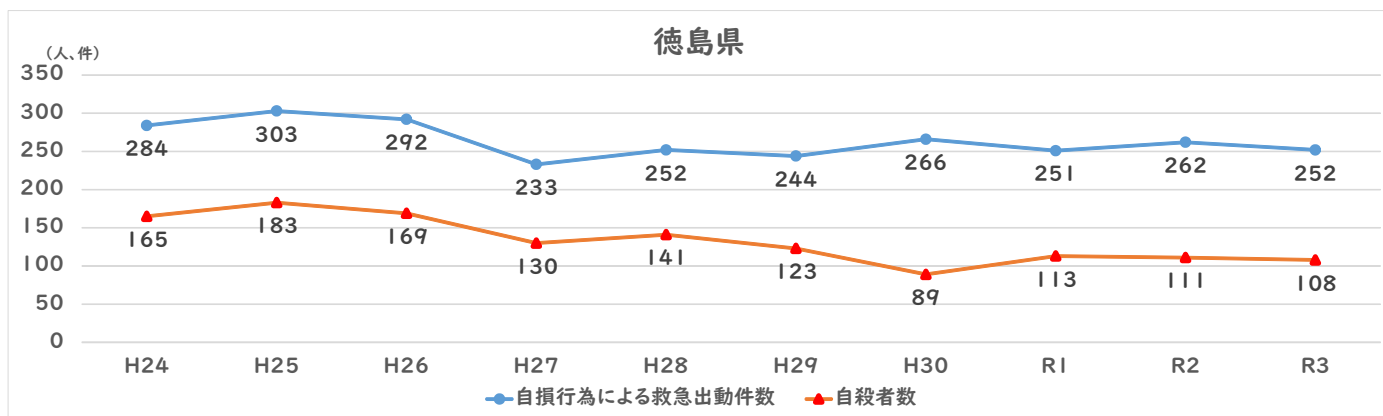
(1) 自殺者数と自損行為における救急出動件数の状況

本県における自損行為による救急自動車の出動件数は、平成25年に300件を超えていましたが、平成27年に大きく減少した後、減少傾向が続き、ほぼ横ばいとなっています。

全国の出動件数については、平成30年に約52,000件と、減少傾向が続いていましたが、コロナ禍の令和2・3年には一転して増加に転じました。

本県と全国の出動件数を比較すると、人口当たりでは、本県の方が少ない件数となっています。

[自殺者数と自損行為における救急出動件数の状況]



[自殺者数と自損行為における救急出動件数の状況(人口当たり)]

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
徳島県	36.5	39.1	38.0	30.6	33.4	32.6	35.8	34.1	36.0	35.1
全国	51.8	50.8	47.3	44.8	42.8	41.3	41.1	41.4	43.6	44.2

資料：厚生労働省「令和4年度版 自殺対策白書」、「徳島県消防年報 救急救助統計」
及び総務省「人口推計」より徳島県算出

(2) 自損行為による搬送人員及び不搬送件数の状況

救急搬送された人員数については、最近5年間ほぼ横ばいとなっています。

搬送人員の内訳を見ると、死亡・重症・中等症の占める割合が6割強と大きくなっています。

また、不搬送件数については、その多くが死亡のため搬送されなかったものとなっています。搬送人員、不搬送となった場合を通じてみると、出動件数に対し3割の方がなくなっているという状況になっています。

[自損行為による搬送人員及び不搬送件数の状況]

年度		H29	H30	H31R1	R2	R3	合計
出動件数(件)	搬送人員(人)(A)	158	199	181	183	170	946
	内訳						
	死亡(B)	30	28	31	30	27	152
	重症	17	31	25	35	23	132
	中等症	75	79	72	62	72	320
	軽症	36	61	53	56	48	340
	その他	0	0	0	0	0	2
	不搬送件数(件)(C)	86	67	70	79	81	421
	内訳						
	死亡(D)	57	37	42	60	59	308
	辞退(到着前)					0	0
	辞退(到着後)					5	5
	緊急性なし	2	5	3	3		21
	傷病者なし	0	0	1	0	1	7
	拒否	5	7	3	6	13	72
	酩酊	0	0	1	0		2
	現場処置	16	16	16	5		107
	他車搬送					1	1
	誤報・いたずら	0	0	2	0	0	3
	その他	6	2	2	5	2	23

年度	H29	H30	H31R1	R2	R3	合計
死亡(B)+(D)=(E)	87	65	73	90	86	460
搬送人員及び不搬送件数に対する死亡の割合(F) $(E)/((A)+(C))=(F)$	35.7%	24.4%	29.1%	34.4%	34.3%	33.7%

資料:「徳島県消防年報 救急救助統計」より

〈傷病程度の定義〉

死亡:初診時において死亡が確認されたもの

重症(長期入院):傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

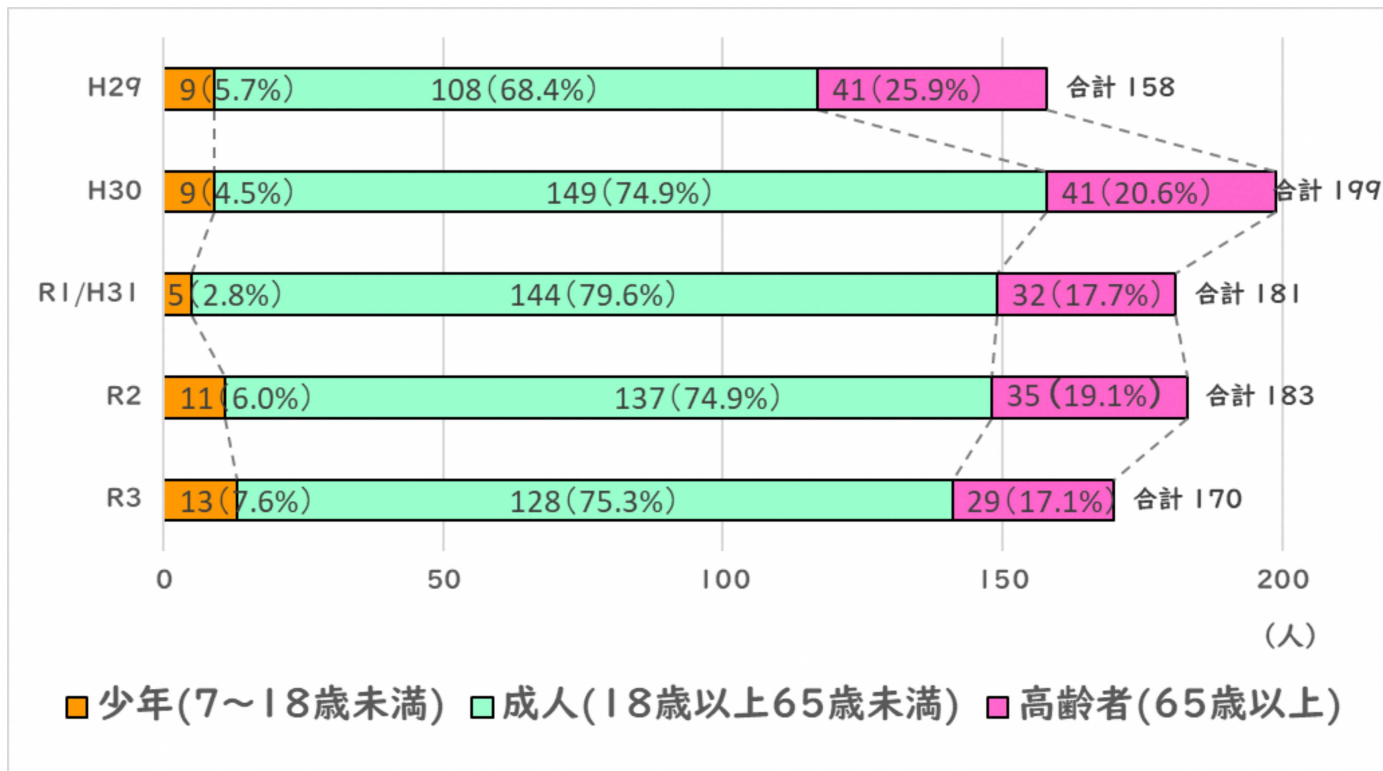
中等症(入院診療):傷病程度が重症または軽症以外のもの

軽症(外来診療):傷病程度が入院加療を必要としないもの

(3) 自損行為による搬送人員の年齢区分別の状況

令和3年中における自損行為による年齢区分別の搬送人員は、少年が13人(7.6%)、成人が128人(75.3%)、高齢者が29人(17.1%)となっています。

[自損行為による搬送人員の年齢区分別の状況]



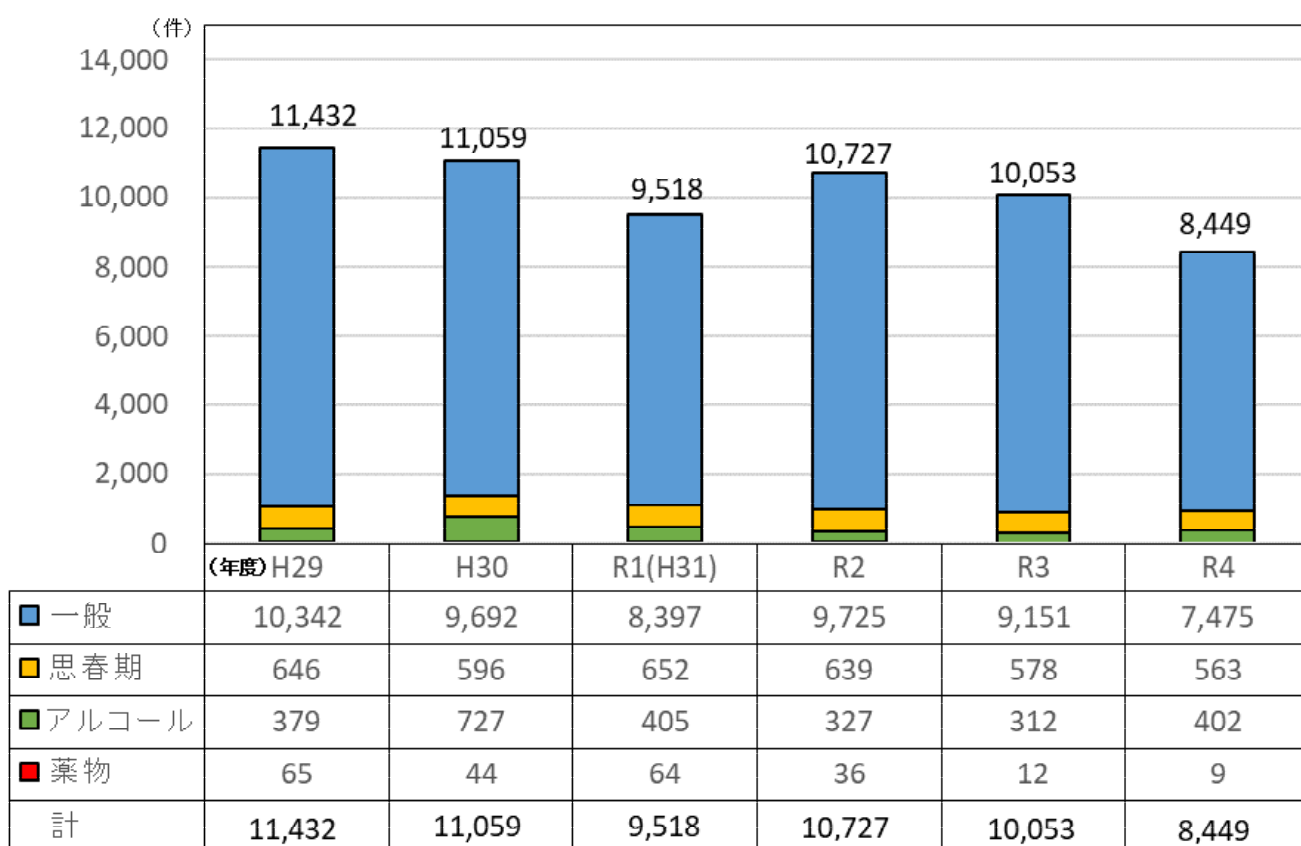
資料:「徳島県消防年報 救急救助統計」より

5 相談件数の状況

県保健所及び精神保健福祉センター（自殺予防センターを含む）では、うつ病、思春期、アルコール、薬物など、自殺へ発展する可能性のある様々な悩みに対する相談支援を行っています。

平成29年度～令和4年度までの相談件数の推移は次のとおりです。

[県保健所及び精神保健福祉センターにおける相談件数(電話・面接)の推移]



6 地域の主な自殺者の特徴

平成29年～令和3年の徳島県（住居地：徳島県に住所がある人）の自殺者数は合計529人（男性361人、女性168人）でした。

平成29年度～令和3年度までの自殺者の特徴のうち、上位を占める5区分は次のとおりです。

「男性」、「60歳以上」の方の自殺死亡率が高くなっており、社会生活における「役割」喪失や家族・配偶者などとの「離別」による喪失をきっかけとする自殺が大きな割合を占めています。

また、仕事上の人間関係やパワーハラスメントなど、職業生活上でのストレスによる働く男性の自殺も割合が大きくなっています。

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合 (%)	自殺死亡率 (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路
1位:男性60歳以上無職同居	71	13.4	24.0	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
2位:男性60歳以上無職独居	59	11.2	99.6	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
3位:男性40～59歳有職同居	48	9.1	14.2	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位:女性60歳以上無職同居	43	8.1	9.3	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
5位:男性20～39歳有職同居	38	7.2	18.4	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺

資料「徳島県地域自殺実態プロフィール2022」より

注)「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意する必要がある。